

- 陸側遮水壁の維持管理については、測温管による地表・地中温度を参考に監視しておりますが、10月13日に、K排水路交差付近（下流部）の測温管150-7Sにて、地中に3m（地表下1.0m～4.0m付近）の区間で局所的に0℃を超過している状態が継続されていることを確認しました。
- 地下水位に変化は無く、内外水位差は確保されていることから、陸側遮水壁の遮水機能に影響はないと評価しております。
- K排水路では、陸側遮水壁との交差部に、凍結による膨張対策として補強箇所が存在します。当該補強箇所内において、クラックなどが発生し、凍結範囲に水が流出している可能性があるかと推定しております。

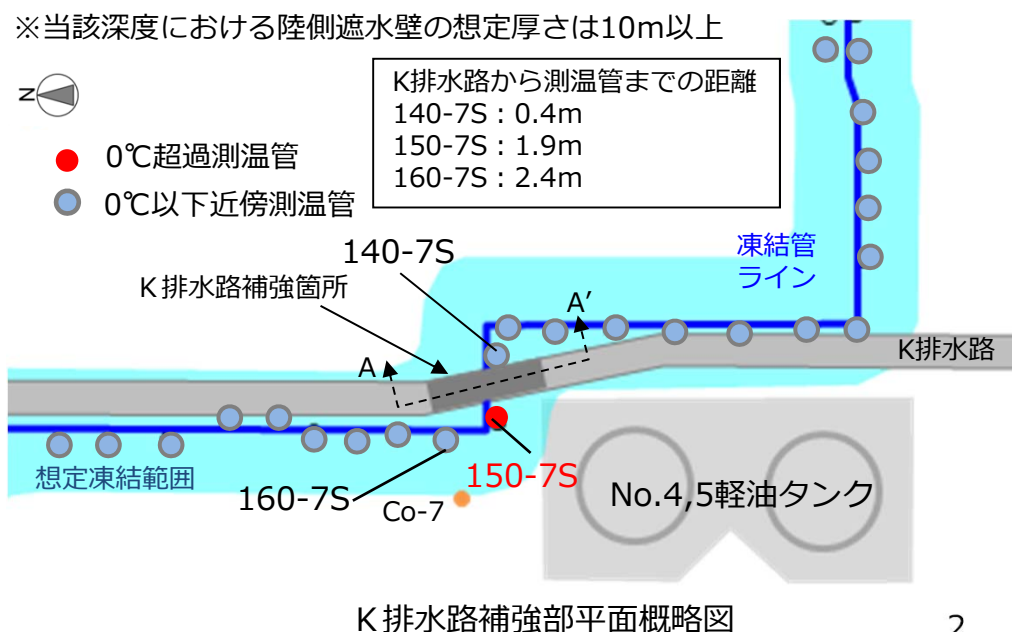
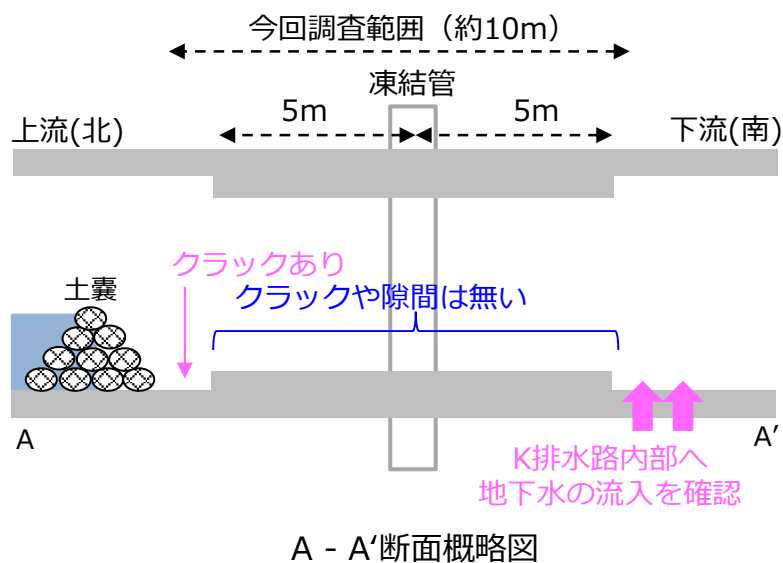
<[2021年10月28日](#) お知らせ済み>

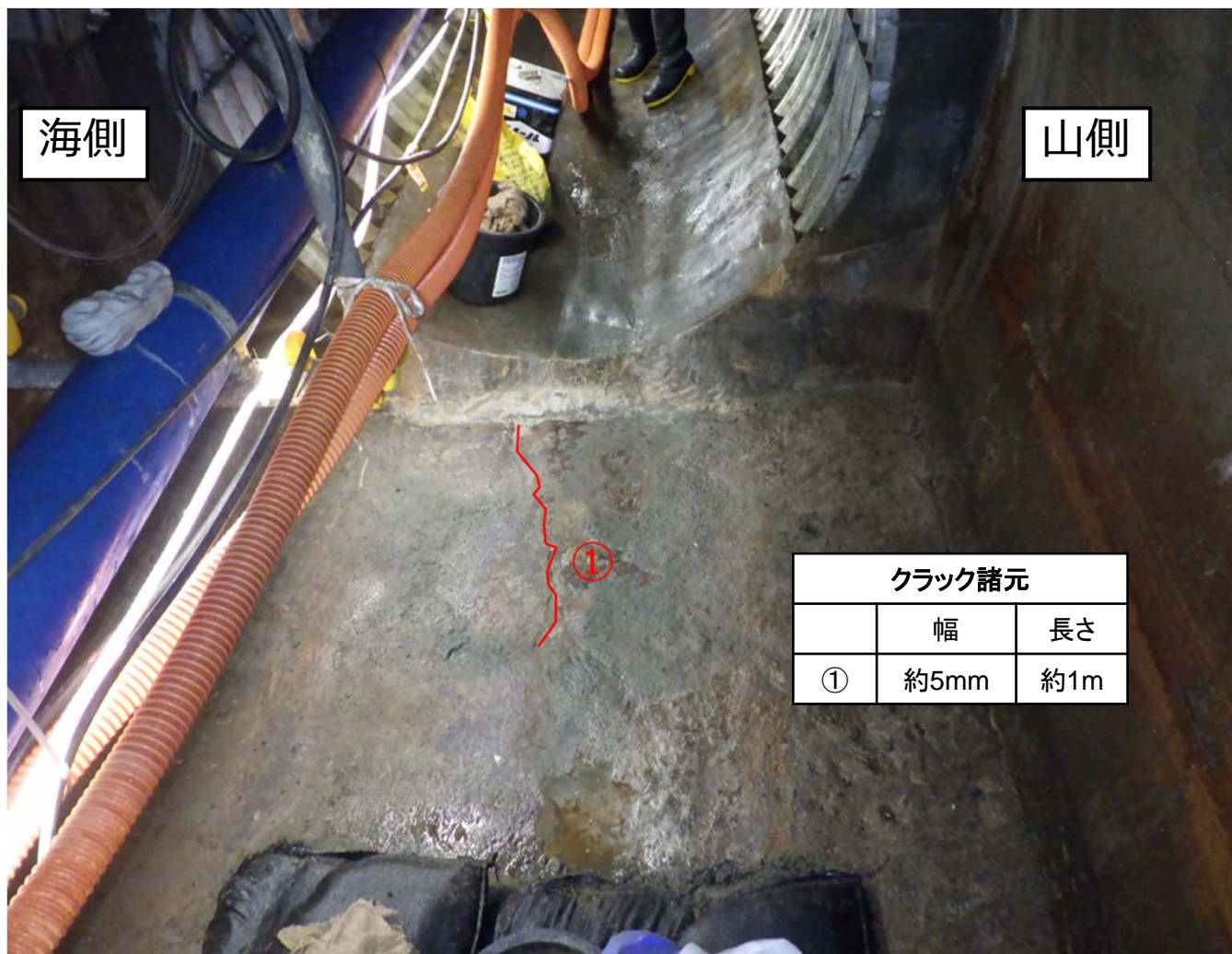
- 11月第1週に当該補強箇所区間をドライアップし、目視による詳細調査、クラック等の補修を実施いたします。

<[2021年11月1日](#) お知らせ済み>

目視による詳細調査結果について

- 11月1日よりドライアップ作業を開始し、目視による詳細調査については、11月2日より開始しております。
- 11月2日～11月3日にかけて、K排水路補強部付近を調査した結果、以下の状況が確認されました。
 - ①補強部上流側にクラック有り（長さ：約1.0m、幅：5mm）
 - ②補強部と凍結管貫通部にクラック、隙間は無し
 - ③補強部下流側に地下水の流入を2箇所確認
- 今後、測温管150-7S近傍の凍結管ライン外側を掘削し、地下の状況を確認いたします。併せて、陸側遮水壁内側を掘削し、同遮水壁が健全であることを確認してまいります。





K排水路内部ドライアップ区間 調査結果



クラック拡大写真

写真はK排水路下流から全景撮影



流入箇所①

流入箇所②

